

日本全国の小学生以下の子どもをもつ男女に、男性育休の実態を調査

「男性育休白書 2021」発表！

全国ランキング 1位は沖縄県。コロナ禍で「男性の家事・育児」に変化は？

積水ハウスは、男性の育児休業取得をよりよい社会づくりのきっかけとしたい、との思いから、9月19日を「育休を考える日」に記念日制定し、2019年から企業で働く男性の育休取得実態を探る「イクメン白書」を発表しています。3回目となる今回は、「育児・介護休業法」の改正により、来年4月から男性の育休取得がより一層積極的に推進されることから、男性の育休取得についてより深く探るべく、タイトルを「男性育休白書」と改めて発行しました。全国の小学生以下の子どもをもつ20代～50代の男女9,400人を対象とした調査を実施しています。(URL: <https://www.sekisuihouse.co.jp/ikukyu/>)

「男性育休白書 2021」

<決定！ 男性の家事・育児力全国ランキング 2021>

1位：沖縄県 2位：鳥取県 3位：奈良県

「男性の家事・育児力」の指標として①配偶者評価②育休取得日数③家事・育児時間④家事・育児参加による幸福感の4つの指標を設け、ポイント算出により都道府県ランキングを作成。

<男性の育休取得や家事・育児の実態>

男性の育休取得率は12.2% 20代男性は31.6%

20代男性は3人に1人が育休を取得。20代男性の60.0%が「上司からの推奨」を受け、83.8%が「職場も協力的」と回答。79.4%が「育休取得は仕事の生産性向上に役立つ」と育休効果を実感している。

家事・育児に積極的に関与し幸せを感じる男性が増加 家事・育児時間も増加

男性の71.9%が家事・育児に「積極的に関与」し、81.0%が「幸せを感じる」と回答。

コロナ禍のリモートワークが男性の家事・育児時間の増加を後押し？

最も感じたのは「妻への感謝」。家事・育児が「妻の苦労を理解」する機会に

リモートワークをする男性の68.0%で家事時間、64.9%で育児時間が増加。家事・育児をした男性が一番感じたのは「妻への感謝の気持ち」が31.0%で、リモートワークをした男性は33.9%とさらに高い結果に。

当社は、男性社員の育児休業1カ月以上の完全取得を目指し、2018年9月より特別育児休業制度の運用を開始しました。2021年8月末時点において、取得期限（子が3歳の誕生日の前日まで）を迎えた男性社員1,052名全員が1カ月以上の育児休業を取得しており、2019年2月以降、取得率100%を継続しています。

「男性の育児休業取得が当たり前になる社会の実現」を目指して活動を続け、世の中に先んじたダイバーシティを今後も推進し、ESG経営のリーディングカンパニーを目指します。

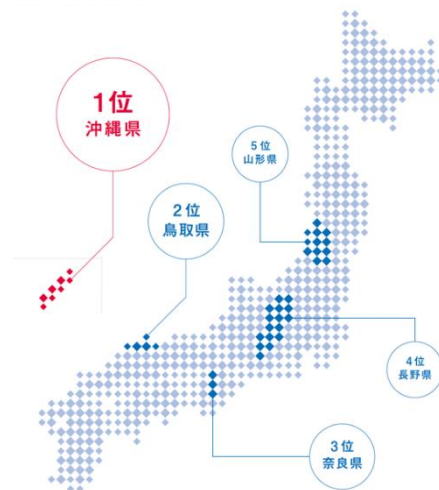
「男性育休白書 2021」～企業で働く男性の育休取得実態調査～

<決定！「男性の家事・育児力」全国ランキング 2021>

「男性の家事・育児力」全国ランキング 2021 TOP20

「男性の家事・育児力」調査を都道府県別にランキングした結果、全国 1 位は「沖縄県」（216 点）、2 位「鳥取県」（192 点）、3 位「奈良県」（186 点）となりました。

順位	総合スコア	順位	総合スコア
1位	沖縄県 216点	11位	山梨県 148点
2位	鳥取県 192点	12位	福島県 144点
3位	奈良県 186点	12位	新潟県 144点
4位	長野県 185点	14位	徳島県 143点
5位	山形県 165点	15位	栃木県 141点
6位	岩手県 160点	16位	長崎県 139点
7位	大分県 159点	17位	千葉県 138点
8位	島根県 157点	18位	福井県 137点
9位	愛媛県 156点	19位	富山県 134点
10位	高知県 154点	20位	東京都 126点
		20位	神奈川県 126点



「男性の家事・育児力」全国ランキング 2021 TOP3 の指標別スコア

順位	県名	総合スコア	指標	順位	スコア
1	沖縄県	第1位 216点	男性(夫)が行う家事・育児の数	8位	7.0個
			男性(夫)の家事・育児関与度	3位	0.63
			育休取得日数	10位	4.9日
			男性(夫)の家事・育児時間	1位	17.1時間/週
			家事・育児幸福度	2位	1.15
2	鳥取県	第2位 192点	男性(夫)が行う家事・育児の数	3位	7.7個
			男性(夫)の家事・育児関与度	6位	0.59
			育休取得日数	8位	5.3日
			男性(夫)の家事・育児時間	9位	15.4時間/週
			家事・育児幸福度	22位	0.92
3	奈良県	第3位 186点	男性(夫)が行う家事・育児の数	16位	6.7個
			男性(夫)の家事・育児関与度	4位	0.61
			育休取得日数	1位	11.3日
			男性(夫)の家事・育児時間	5位	16.0時間/週
			家事・育児幸福度	28位	0.91



沖縄県 玉城知事

はいさい。沖縄県知事の玉城デニーです。沖縄県が、男性の家事・育児力ランキングで全国 1 位に輝いたことを、大変嬉しく思います。

家事・育児力を決める 4 つの指標の中でも、男性の「家事・育児時間」が長いという結果については、沖縄県は子どもの数が多いことや、子育てしながら働く女性が多いことから、男性が家事・育児に関わる時間が長いのは、必然とも言えるかもしれません。また、特に素晴らしいところは、男性自身の家事・育児への幸福度が高いという点ではないかと思えます。

私も 4 人の子どもがおりますが、第 3 子、第 4 子が生まれた頃に子育てを分担し、その大変さと楽しさを実感できました。4 人はすでに成人し、うち 2 人は結婚、子どもの誕生に恵まれ、夫婦互いに協力して仕事と子育てに頑張っています。これからも、男女の支え合いで家庭や社会の幸福度を高めていけるよう、沖縄県として推進してまいります。

まじゅん ちばてい いちゃびらなやーさい！（一緒に頑張っていきましょう）

「男性の家事・育児力」全国ランキング 2021 年の傾向

「男性の家事・育児力」全国ランキング指標別 TOP3

TOP3	男性が行う家事・育児の数		男性の家事・育児関与度		育休取得日数		男性の家事・育児時間		家事・育児幸福度	
1位	岩手県	8.2個	岩手県	0.72	奈良県	11.3日	沖縄県	17.1時間	福岡県	1.16
2位	島根県	8.1個	長野県	0.69	長野県	7.8日	福井県	16.7時間	沖縄県	1.15
3位	鳥取県	7.7個	沖縄県	0.63	埼玉県	6.5日	長崎県	16.5時間	山梨県	1.15
21年全国平均	6.3個		0.39		3.7日		13.3時間		0.92	
19年全国平均	5.4個		-0.03		2.4日		11.1時間		0.91	

指標別のランキング上位県を見ると、女性が評価するパートナーの男性の家事・育児数と家事・育児関与度で、「岩手県」が全国1位となっています。男性の育休取得日数全国1位の「奈良県」は、11.3日と唯一の2桁日数を記録しています。また、男性の家事・育児時間の1位「沖縄県」3位「長崎県」、家事・育児幸福度の1位「福岡県」2位「沖縄県」と九州勢が上位にランクインしています。

今回の全国平均とコロナ前の2019年の結果を比較すると、家事・育児数は5.4個→6.3個、関与度は-0.03→0.39、育休取得日数2.4日→3.7日、家事・育児時間11.1時間→13.3時間、家事・育児幸福度0.91→0.92といずれもスコアは上昇しており、男性の家事・育児が促進されていることがうかがえます。

積水ハウスが独自設定した

「男性の家事・育児力」を決める4つの指標

積水ハウスでは、右記の4つを「男性の家事・育児力」の指標として設定しました。1つ目は「女性の評価」で、男性が行っている家事・育児の数と、男性が子育てを楽しみ、家事や育児に積極的に関与すると思うかどうかを4段階評価しています。2つ目は男性の「育休取得経験」で、育休取得日数が基準となります。3つ目は男性の「家事・育児時間」で、男性の自己申告ではなく女性から見た男性の家事・育児時間を基準とします。4つめは男性の「家事・育児参加による幸福感」で、男性本人に家事・育児に参加して幸せを感じているかどうかを4段階で聞きました。

これら4指標5項目をそれぞれ数値化し47都道府県別にランキングし、1位：47点～47位：1点を付与し、各項目の点数を足し上げることで、都道府県別の家事・育児力を算出しました。

「男性の家事・育児力」の基準となる 4つの指標

1	2
女性(妻)の 評価 (2項目)	育休 取得経験
3	4
家事・育児 時間 女性(妻)の評価	家事・育児 参加による 幸福感

＜男性の育休取得の実態＞

男性の育休取得率は 12.2%

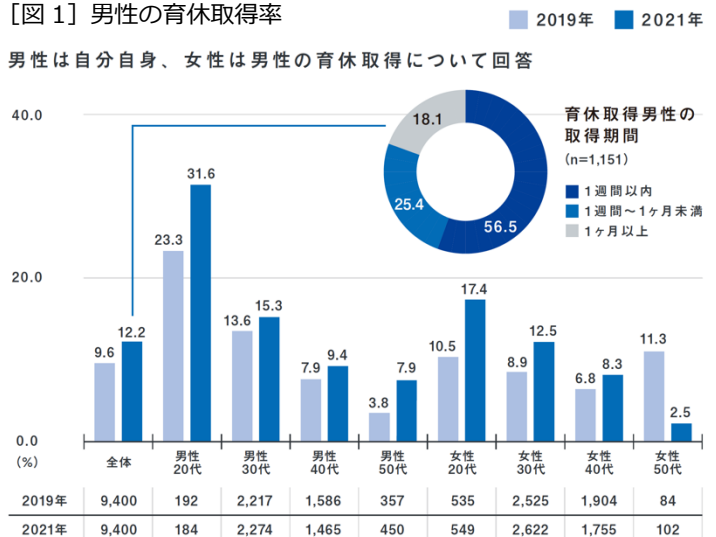
20 代では 3 割が取得

若い世代が男性育休の推進役に

育休を取得した男性は全体の 12.2% で 2019 年 (9.6%) より増えています。とはいえ、取得日数は「1 週間以内」(全体の 6.9%、取得者の 56.5%) が半数を占め、「1 カ月以上」取得したのは全体の 2.2%、取得した人の中でも 2 割もいません。一方、20 代男性は 31.6% が取得しており、2019 年 (23.3%) と比べて 8.3 ポイント増えています [図 1]。

若い世代が、男性の育休取得推進の原動力となることが期待できそうです。

[図 1] 男性の育休取得率



男性の育休制度に 9 割が賛成！取得意向が男女ともに高まる

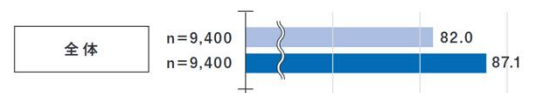
男性の育休取得に賛成かどうか聞くと、全体の 87.1% が「賛成」と答え、2019 年より 5.1 ポイント高くなっています [図 2-1]。

また、自身の育休取得については男性の 67.3% が「今後、育休を取得したい」と答え、2019 年より 6.8 ポイント高くなっています [図 2-2]。

パートナーの男性に育休を取得してほしいと答えた女性は 59.8% で、2019 年より 10.7 ポイント高くなっています [図 2-3]。

[図 2-1] 男性の育休制度に対する意見

スコアは「賛成する」+「やや賛成する」の合計値 ■ 2019年 ■ 2021年



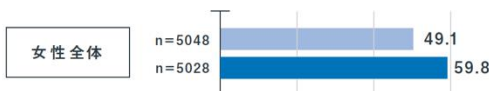
[図 2-2] 今後、育休を取得したい男性

スコアは「取得したい」+「やや取得したい」の合計値 ■ 2019年 ■ 2021年



[図 2-3] パートナーの男性に育休を取ってほしい女性

スコアは男性に「取得してほしい」+「やや取得してほしい」の合計値 ■ 2019年 ■ 2021年



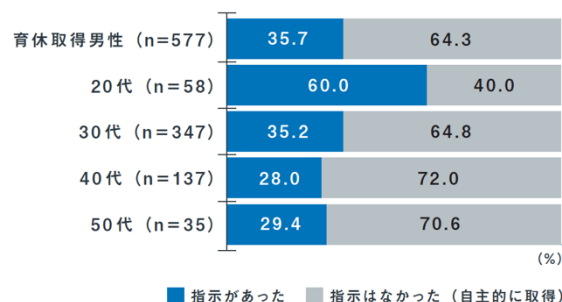
20 代男性は、上司からの指示や職場の協力体制が育休取得の後押しになる

育休取得後は生産性の向上を 8 割が実感

育休を取得した男性に、会社からの育休取得の指示の有無を聞くと、35.7% が「指示があった」と答え、20 代男性は 60.0% と高くなっています [図 3-1]。育休時の職場の協力体制は 75.3% が「協力的」と答え、20 代男性は 83.8% とさらに高くなっています [図 3-2]。

このような好環境の影響からか、育休取得は仕事の生産性向上に役立ったかと聞くと、全体では 64.5% が「役立った」と答えています。20 代男性では 8 割が「役立った」(79.4%) とより強く実感しています [図 3-3]。

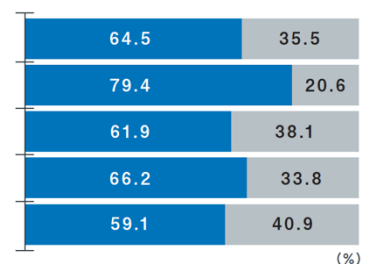
[図 3-1] 上司からの指示



[図 3-2] 職場の協力体制



[図 3-3] 生産性向上に役立った

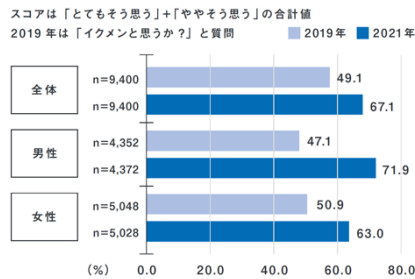


<男性の家事・育児と、コロナ禍の影響>

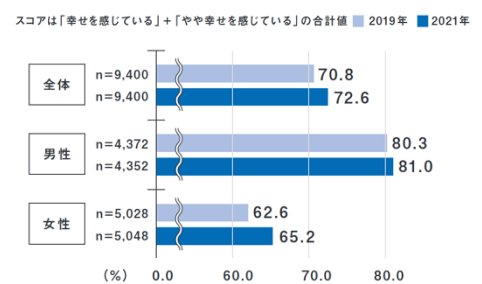
男性の7割が家事・育児に「積極的に関与」し、8割が「幸せを感じている」

男性には自分自身が、女性にはパートナーの男性が、子育てを楽しみ、家事・育児に積極的に関与しているかどうか答えてもらいました。すると男性の71.9%が「積極的に関与している」と答え、女性(63.0%)が思う以上に家事・育児意識の高い男性は多いようです。2019年は「イクメンと思うか」と聞いたので捉え方がやや異なるかもしれませんが、全体で18ポイント、男性では20ポイント以上も伸びています【図4-1】。

【図4-1】男性は子育てを楽しみ家事・育児に積極的に関与している



【図4-2】男性は家事・育児を行うことに幸せを感じている

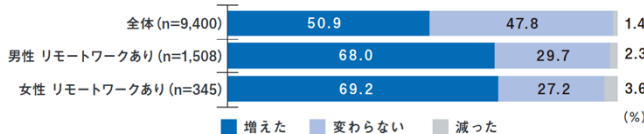


また、男性は家事・育児を行うことに幸せを感じるかどうか、同様に聞くと、男性の81.0%が「幸せを感じる」と答え、2019年(80.3%)と比べ幸せを感じる人が増えています【図4-2】。

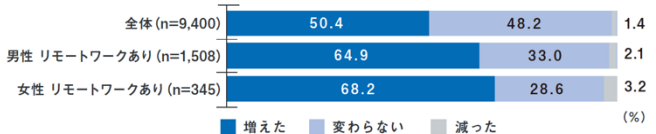
リモートワークをする男性の家事・育児時間が増加

コロナ禍による家事時間の変化を聞くと、半数が家事時間が「増えた」(50.9%)と回答しています。リモートワークする人は、男性(68.0%)も女性(69.2%)も家事時間が増えています【図5-1】。育児時間も同様の傾向で、全体の50.4%が育児時間が「増えた」と答え、リモートワークする男性(64.9%)や女性(68.2%)の育児時間の増加が顕著です【図5-2】。

【図5-1】コロナ禍による家事時間の変化

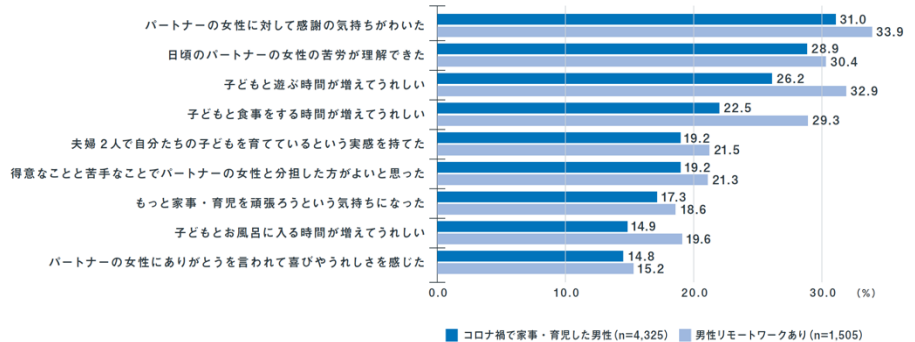


【図5-2】コロナ禍による育児時間の変化



また、コロナ禍で家事・育児をした男性にその時の気持ちを聞くと「妻に対して感謝の気持ちがわいた」(31.0%)、「日頃の妻の苦勞が理解できた」(28.9%)のスコアが高くなっています【図6】。コロナ禍での男性の家事・育児は、パートナーの女性への感謝の気持ちを醸成したようで、リモートワークをした男性ではさらに高くなっています。

【図6】コロナ禍で家事・育児をしたことによる気持ちの変化



「男性育休白書 2021」 調査概要

実施時期：2021年6月11日～6月21日 調査手法：インターネット調査

調査対象：全国47都道府県別に、配偶者および小学生以下の子どもと同居する20～50代の男女200人計9,400人、人口動態に基づきウエイトバック集計（男性の家事・育児ランキングについては人口動態+12歳未満のお子さまとの同居率もウエイトバック値に加味）

※構成比(%)は小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計しても100%にならない場合があります。

子ども支援政策や男性の家庭参加の専門家 治部れんげさんに聞く

「男性育休白書 2021」から見てきた 若い世代の意識変化

今回の調査で私が最も関心を引かれたのは、世代別の分析でした。年齢が若いほど、男性育休に対してポジティブであることがよく分かります。育休を取得したい男性は 20 代で 81%を超えており、夫に育休を取ってほしい女性は 72%を超えていました。2 年前と比べて男女共に 15~20 ポイントも増加しており、40 代~50 代男女と比べて大きな差があります。

積水ハウスの仲井嘉浩社長は、男性育休 1 カ月以上の完全取得導入を決めた理由として、若い世代の意識を挙げていました。部下や後輩男性が家事や育児に参加することを当然と考えていることを理解していたからこそ、企業の制度を通じて、彼らの希望を実現したいと思ったのでしょう。

こうした発想には、共感を覚えます。今年 4 月から、私は理工系の国立大学で文系教養科目を教えています。約 85%の学生が男子であるため、折に触れて男性にとってのワークライフ・バランスや男性育休について伝えています。

実際、子どもが好きなので、自分も将来育休を取り、家庭生活にコミットしたい、という学生は男女ともにいます。また、実際に育休を取得した 30 代男性にゲスト講師として来ていただいたところ、男性の家庭参加と日本の社会課題の連続性を理解して、触発された学生が多くいました。中には、就職先を選ぶため、男性育休の取得率が高い企業を調べてみた、という人もいます。若い世代にとって、性別で役割を決めるのではなく、個人の希望や能力に沿って働きながら家族形成をするのが当たり前になっています。授業の中で積水ハウスを始めとする、男性育休を推進している企業について話すと、高い関心が寄せられました。

経営者や管理職の方には、特に「男性育休白書 2021」(<https://www.sekisuihouse.co.jp/ikukyu/research/>)の P21 をよくご覧いただき、若い世代が望む働き方、ライフスタイルを理解していただきたいと思います。男性育休を通じて彼らのワークライフ・バランスを支援することは、優秀な人材の獲得や定着、彼らにやる気を持って働き続けてもらうために、とても大切なことです。中でも特に重要なのは、直属の上司によるサポートで、これは白書にも書かれています。男性の部下から「今度、子どもが生まれます」「妻が妊娠しました」と聞いたら「おめでとう」の次に「あなたはいつからいつまで育休を取るの?」と聞いてあげてください。男性育休を「当たり前」と捉える上司や先輩の態度は、若い世代の男性が安心して制度を利用することにつながります。復帰後は職場を信頼して力を発揮してくれるでしょう。

新型コロナウイルスの感染拡大予防のため、テレワークをする人が増えています。家庭にいる時間が長くなることで、若い世代ほど家事・育児時間が増えていることが、今回の調査で明らかになったことも、興味深いです。私と同世代の管理職の皆さんには、部下世代が性別を問わず、家事・育児をしている実態を知っていただきたいと思いました。

また、毎年続けている都道府県別の調査については、初めて 1 位になった沖縄県の取り組み、例年上位の鳥取県の取り組みは、あらためて気になりました。この白書を通じて、企業内で、地域で、男性育休を推進する機運がさらに高まることを願っています。



治部れんげ (じぶ・れんげ) ジャーナリスト/東工大准教授

1997 年一橋大学法学部卒。日経 BP 社にて経済誌記者。2006~07 年、ミシガン大学フルブライト客員研究員。2014 年よりフリージャーナリスト。2018 年、一橋大学経営学修士課程修了。メディア・経営・教育とジェンダーやダイバーシティについて執筆。

2021 年 4 月より、東京工業大学リベラルアーツ研究教育院准教授。内閣府男女共同参画計画実行・監視専門調査会委員。日本政府主催の国際女性会議 WAW!国内アドバイザー。東京都男女平等参画審議会委員。豊島区男女共同参画推進会議会長。公益財団法人ジョイセフ理事。UN Women 日本事務所、日本経済新聞社等による「アンステレオタイプアライアンス日本支部」アドバイザー。

著書に『ジェンダーで見るヒットドラマ：韓国、アメリカ、欧州、日本』（光文社）、『「男女格差後進国」の衝撃：無意識のジェンダーバイアスを克服する』（小学館）等。2 児の母。

<参考> 積水ハウス社員の「男性育休白書 2021」

3歳未満の子どもがいる全男性社員対象に、

1カ月以上の育休完全取得を目指す積水ハウスの特別育児休業制度

「キッズ・ファースト企業」として子育てを応援する社会を先導する当社では、ダイバーシティ推進の取り組みを一層加速させるため、2018年9月より「男性社員1カ月以上の育休完全取得」を推進しています。3歳未満の子どもをもつすべての社員が対象となり、子どもの誕生から3歳に達する日の前日までに1カ月以上の育児休業を取得するもので、最初の1カ月は有給とし、家庭の事情や業務との調整を図りやすいよう、分割での取得も可能です。さらに、2021年4月から、配偶者の産後8週間以内は1日単位で自由に取れるように変更し、より柔軟に使える「男性育休」として進化しています。

特別育児休業を取得した積水ハウス社員の「男性の家事・育児力」、今年も高い結果に

特別育児休業を取得した男性社員と、パートナー男性が取得した女性を対象に「男性の家事・育児力」調査を行いました。その結果、積水ハウス社員はほぼすべての項目で全国1位となった都道府県のポイントを上回り、家事・育児を積極的に楽しみ、幸福を感じていることがうかがえる結果となりました〔図7〕。

〔図7〕 積水ハウス社員の男性の家事・育児力調査（全国TOP3との比較）

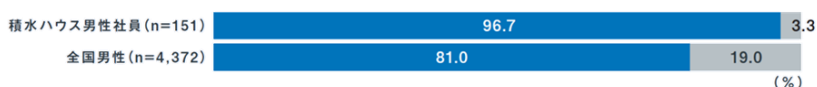
部門別TOP3	男性が行う家事・育児の数	男性の家事・育児関与度	育休取得日数	男性の家事・育児時間	家事・育児幸福度
積水ハウス	14.0	1.11	31.0	16.3	1.65
1	岩手県 8.2	岩手県 0.72	奈良県 11.3	沖縄県 17.1	福岡県 1.16
2	島根県 8.1	長野県 0.69	長野県 7.8	福井県 16.7	沖縄県 1.15
3	鳥取県 7.7	沖縄県 0.63	埼玉県 6.5	長崎県 16.5	山梨県 1.15
全国平均	6.3個	0.39	3.7日	13.3時間	0.92

特別育児休業取得の男性社員もパートナーの女性も約98%が「良かった」と高評価

特別育児休業を取得した男性社員の96.7%とほぼ全員が「家事・育児に幸せを感じる」と答え〔図8〕、パートナー女性の90.8%が「パートナー男性は家事・育児に積極的」と認めており〔図9〕、今回調査の全国平均を大きく上回っています。当社の特別育児休業制度についての評価を聞くと、男性社員（98.4%）もパートナーの女性（97.8%）もほぼ全員が「良かった」と答えました〔図10〕。

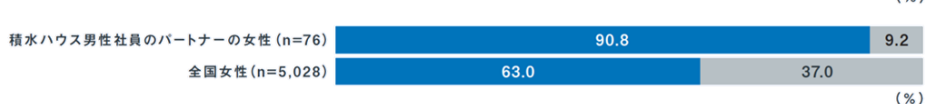
〔図8〕 家事・育児に幸せを感じる

■ 幸せを感じる ■ 幸せを感じていない



〔図9〕 男性は子育てを楽しみ家事・育児に積極的

■ 積極的だと思う ■ 思わない



〔図10〕 特別育児休業制度の評価

■ 良かった ■ 良くなかった



特別育児休業取得者調査

〔図7〕～〔図9〕 実施時期：2021年5月～6月 調査方法：インターネット調査 調査対象：2020年6月～2021年4月に、特別育児休業を取得完了した男性社員とパートナー女性 回答数：積水ハウス男性社員151人、パートナー女性76人

〔図10〕 実施時期：2020年8月～2021年7月に特別育児休業のシステムに登録された回答データ 回答数：積水ハウスの男性社員305人、パートナー女性229人